とうきょう　すくわくプログラム活動報告書〈令和７年度〉

法人名	社会福祉法人　崇仁会
施設名	北沢みこころ保育園
所在	世田谷区北沢 4-16-6
クラス	めばえ組　０歳児

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

色々な感触に出会おう～季節の野菜～

〈テーマの設定理由〉

０歳児クラスのお友だちはまだ触れたことのない、出会ったことのない感触がたくさんあります。そんな初めての瞬間に、子どもたちがどんな表情や反応を見せてくれるのか、そんな瞬間にスポットを当ててみました。

2. 活動スケジュール

・８月２８日　夏野菜に触れる
・１０月１日　キノコ割きをする
・１１月１７日　冬野菜に触れる

3. 活動のために準備した素材や道具

【食材】
・夏野菜・・・オクラ・なす・ズッキーニ
・キノコ・・・えのき・エリンギ・しめじ
・冬野菜・・・れんこん・ほうれんそう(生、茹でたもの)・かぶ・ごぼう
【その他備品】
トレー、手拭きタオル、雑巾

４．環境設定及び配慮事項

・子どもたちが口に食材を入れたりしないように見守る。
・感触が苦手な子もいるので、無理に触らせるのではなく、子どもたちが興味を持てるような関わり方をしていく。
・同じ野菜でも切り方を変えたり、茹でてみたりと色々な感触を楽しめるようにした。
・食育のあとは清掃が必要となるので、仕切れるスペースを設定する。
・給食室と連携を取り、子どもの様子や発達などを共有し、野菜の種類や環境を設定していく。

５.探究活動の実践

《活動内容》

・夏野菜と冬野菜はトレーに乗せ、子どもたちが触りやすいようにマットの上に置き、好きな野菜に触れられるようにした。季節の野菜を知り、子どもたちが感触や匂いを感じられるようにする。
・きのこ割きでは子どもたちの前で、きのこを割く様子を見せたりしながら、子どもたちもきのこ割きをしてみた。

《活動中の子どもの姿や声・保育者との関わり》

・夏野菜は２歳児クラスで育てていたナスが成長する様子を保育室の窓から見守っていた事もあり、馴染みがあった。オクラは野菜スタンプをした際触れる経験があったので、子どもたちも夏野菜が出てくると自分の好きな野菜を持ち触っていた。オクラはうぶ毛があるので、触った瞬間「えっ！」といった表情をしたり、自分の手を見たりする子もいた。トレーから色々な野菜を手に取り、触れ、感触や重さなどを楽しむ姿が多かった。

・きのこ割きでは、あまり食材に見慣れていないこともあり、最初は警戒している子が多かった。匂いも強いので、鼻を近づけると何とも言えない、難しい表情の子も多かった。保育者がきのこ割きをする様子を見せたり、一緒に引っ張ったりすることを繰り返しているうちに指先を使い、しめじの傘の部分だけちぎったり、えのきを１本ずつつまんだりときのこ割きを楽しみ始めました。きのこ割きが終わると保育室中がきのこの匂いに包まれていた。

・夏野菜、きのこ割きを経験してからの今回の冬野菜では、トレーを置いた瞬間から子どもたちが集まり、野菜に手を伸ばし、積極的に野菜に触り始めた子どもたち。ごぼうやかぶを杖のようにしたり、レンコンの穴を覗いたり、レンコンを椅子のようにして座ろうとしたり、レンコンの穴に茹でたほうれん草を入れようとしたり、野菜を両手に持ちぶつけてみたりと、子どものたちの発想は面白いなと感じた瞬間がたくさんあった。

6，振り返り

・食育として季節の食材に触れることを繰り返し行うことで子どもたちも、積極的に、そしてダイナミックに触れ合うように変化が見られ、経験の積み重ねの大切さを感じた。また子ども達は、目の前にある食材を使い、穴が開いていたら、何かを入れようとしたり、椅子に見立ててみたりと、想像力の豊かさも感じた。保育の中で絵本を楽しむことも多くなってきた子どもたちだが、食育で、触れた野菜が出てくると「あっ！」と指さす子もいた。経験したことが繋がっている場面も増えてきた。五感を使い、子どもたちには色々な感触を体験することで、食事だけではなく、色々な活動へも繋がっていくと実感した。